

第 20 回 SPring-8 選定委員会議事概要

1 日 時：平成 27 年 2 月 6 日（金）13:30～15:45

2 場 所：ステーションコンファレンス東京 605-A 号

3 出席者：[委 員] 佐々木聰（委員長）、雨宮慶幸、尾嶋正治、片桐元、金谷利治、栗原和枝、坂田誠、中川敦史、平井康晴、水木純一郎

[SPring-8 利用研究課題審査委員会 委員長] 村上洋一

[JASRI] 土肥義治、熊谷教孝、野田健治、高田昌樹、木下豊彦、八木直人、鈴木昌世

[オブザーバー：文部科学省] 工藤雄之、近藤昂一郎

[オブザーバー：独]理化学研究所] 佐々嘉充、石田浩康

[事務局] 杉本正吾、坂川琢磨、河原聰

(以上、敬称略)

4 配布資料：

資料選 20-1 : 委員名簿

資料選 20-2 : 第 19 回選定委員会議事概要（案）

資料選 20-3 : 2015A 期 SPring-8 利用研究課題選定について
(2015A SPring-8 利用研究課題審査結果リスト)

資料選 20-4 : 2015B 期以降の利用制度等について

資料選 20-5 : 2015B 期（平成 27 年度後期）SPring-8 利用研究課題の募集および選定について

資料選 20-6 : 専用施設の契約満了に伴う利用状況等評価および次期計画の審査結果について

資料選 20-7 : 成果の発表等状況について

資料選 20-8 : 平成 27 年度パートナーユーザーの指定について

資料選 20-9 : JASRI のビームタイム利用について

5 議 事 :

1) 開会

開会にあたり、JASRI 土肥義治理事長より以下の挨拶があった。

SPring-8 の安定的な運転が一番大事だと認識しており、電気料金の値上げ等懸念要因はあるが、文科省や理研とも連携の上、次年度は 4000 時間のユーザー時間確保したい。幅広いユーザー利用のため、今回から社会・文化利用課題の創設やタンパク質構造解析や産業利用課題の実施の仕方を改善しており、本日それらの審査結果をご審議いただきたい。また、2015B 期からの利用制度では「新分野創成」というグループ結成型の新しい利用制度の提案等をさせていただくのでご意見を伺いたい。利用ユーザーの成果の最大化のためには JASRI の研究スタッフについても適切な評価をいただき利用支援に貢献する必要があるので、外部有識者による科学技術助言委員会を設置し、JASRI の実施している研究開発や技術支援について評価や助言をいただくこととした。

2) 前回議事概要の確認

事務局より配付資料の確認があった後、委員長より前回、第 19 回 SPring-8 選定委員会の議事概要については、ご意見等あれば本会議中に連絡してもらうこととした。その後、特に意見はなく承認された。

3) 審議事項

(1) 2015A 期 SPring-8 利用研究課題選定について

SPring-8 利用研究課題審査委員会 (PRC) の村上洋一委員長から資料選 20-3 等により説明があり、全応募数 921 課題に対して 593 課題を選定した。全体の選定率は 64.4% であったこと。各分科会からの特筆事項や意見等の紹介があった。

質問：BL25SU の採択率が異常に低いのは何故か。今まででもこんなに低かったか。

回答：今回 18.2%と一番低い採択率となった。前期までビームラインを改造しており、その間、使えなかったユーザーの課題が今回一度に応募された影響と思われる。

質問：海外からの課題が採択ベースで 6%と少ないのでないのではないか。また、海外課題の場合、外国人評価者による評価をしているが日本人評価者との評価の違いがあったようだが問題ないのか。

回答：海外課題の比率は例年 5%から 10%で推移しており、今回もその範囲内である。英語の申請書については外国人評価者に評価をお願いしているが、絶対評価のみで相対評価になつてないため、他のレフェリーの審査との評点の合算はしていないが、参考となるコメントも多いので参考評価としている。

意見：相対評価は難しくても、順位付けぐらいはしてもらつても良いのではないか。

意見：評点の付け方の基準や定量的に比較できる方法など検討していきたい。

質問：今回例年の A 期に比べ、配分シフトが多いが何か理由があるのか。

回答：予算要求時点では、運転時間の延長を期待して計画していたので、応募課題も多くなったが、ご存じのように来年度予算の決定が遅れ、結果的に運転時間は例年並みとなつた。しかし、元々 A 期と B 期の配分バランスが悪いこと等を考慮し、今回は A 期の配分比率を多くした。

質問：長期利用課題が一般課題のビームタイムを圧迫していると記載があるが、具体的にはどこのことか。

回答：XAFS・蛍光分析のビームラインで BL39XU 等がそれに該当するかと思うが、分科会レベルで他の手法の課題がビームタイムを押さえており、XAFS 課題の入る余地が無かつたことから、このような意見が出たのかと思う。長期利用課題については後ほど別議題で改めて審議させていただきたい。

意見：今回から始めた社会・文化利用課題については、今回申請は 16 件だが、他の分科で社会文化の方が相応しい課題もあったので、今後、倍増しても良いと思う。PX-BL 課題については科学的価値の無い課題以外は、この段階では採択とし、後日シフト配分も行う。結果的にシフト配分されない課題も発生するので最終的な実施課題数で採択率は変わってくる。

意見：課題数ベースでの採択率は 60%台だが、シフト数ベースの充足率では 50%台となる。特に長期利用課題においてはシフト配分を減らしたので、充足率は悪くなつた。

質問：萌芽的研究支援課題の選定率が悪いが、学生が真剣に申請書を書かず、指導教官の研究をコピペしているようなものが多いと聞くが本当か。

意見：萌芽の評価委員会では、まじめに研究されている学生も多く、前向きな意見が多かったので、非常に良く機能していると思う。

回答：懸念については継続的にウォッチし、必要であれば制度の見直しも考えたい。

まとめ：2015A 期の選定課題については、利用研究課題審査委員会の審査結果どおり了解することとした。

(2) 2015B 期以降の利用制度等について

野田常務理事から資料選 20-4 により SPring-8 共用ビームライン「新分野創成」利用制度の設定・運用についての説明があった。

意見：専用ビームラインの制度と似ていると説明があったが、専用施設は設置者が自ら出資してビームラインを整備し、運営しているので、その意味では違うのではないか。

質問：当制度と長期利用課題との違いが良く判らないので補足説明をお願いしたい。

回答：当制度では、代表責任者が研究グループを組織して、複数の課題を横断的に実行し、目的である研究計画を遂行してもらうことが特徴である。原則、個人ベースの長期利用課題とは違っているが、長期課題でもグループを組織して同じことを実施することも可能であり似ているところもある。この後、長期利用課題制度もその点を考慮して見直しを提案するので、ご審議いただきたい。

質問：「新分野創成」が目的となっているので、科研費の「新学術」等の外部資金獲得者

が対象ということか。

回答：科研費の新学術のような研究プロジェクト実行している方も対象になり得るが、当制度は独立しているので、改めて当方の新委員会で審査を実施することとしている。

質問：ESRF でもグループで申請する制度があるが、これを意識しているのか。

回答：ESRF を訪問したときに、そのことは聞いている。ESRF では SPring-8 よりも課題選定率がさらに低く、出来るだけグループ化してビームタイムの有効活用してもらう効果とグループ課題の方が論文化率も高くなっていると聞いている。SPring-8 もそのような効果があれば良いと思うので、まずはトライアル的に 5 年間で実施したい。

意見：今回の制度で、これまで使ったことのある方たちと使ったことのない方たちが手を組めば、利用拡大や、複数のビームライン間でのビームタイムの融通など良い相乗効果が有るのではないかと期待したい。

質問：個々のグループの有効期間が 2 年というのは短くないか。また、年 1 回の選定が 2 件までとの条件を付ける必要はあるのか。

回答：当制度は長期課題と同様に、中間評価を行わないこととしているが、再申請は可能となっている。当制度は PRC とは別の委員会で事前に審査されるので、制度設計上、枠の設定は必要であり、一般課題枠をあまり圧迫しないよう一定の配慮を行い、今回の制限内容とした。当面この内容で運用してみて、変更が必要であれば改めてご審議いただくこととしたい。

まとめ：SPring-8 共用ビームライン「新分野創成」利用制度の設定・運用については原案どおり承認することとした。

(3) 2015B 期 SPring8 利用研究課題の募集および選定について

野田常務理事から資料選 20-5 により 2015B 期（平成 27 年度後期）の SPring-8 利用研究課題の募集内容と選定基準（新分野創成利用に係る基準の追加等一部変更）・審査方法（新分野創成利用に係る審査方法等一部変更），長期利用課題の運用変更および、SPring-8 共用 BL 利用申請課題審査における「申請者の成果公表状況に応じた減点運用」等について説明があった。

まとめ：2015B 期の SPring-8 利用研究課題の募集および選定について、原案どおり承認することとした。また、パートナーユーザー課題の配分ビームタイムの上限についても 16% とすることで了承された。

(4) 専用施設の契約満了に伴う利用状況等評価および次期計画の審査結果について

坂田委員（専用施設審査委員会委員長）から資料 20-6 により専用施設審査委員会で実施した兵庫県 BM ビームライン（BL08B2）の利用状況等評価および次期計画の審査結果について説明があり、評価結果は、次期計画期間は 10 年で承認し、SPring-8 の次期計画が明らかになった時点で中間評価を行い、継続の是非について審議することが妥当であるとの報告があった。

質問：報告書に研究支援業務経費を徴収している場合は登録施設利用促進機関の了解等を得る必要があると記載があるがこれは、具体的にどういう意味か。

回答：兵庫県ビームラインは、設置者（兵庫県や県立大学）が使うだけでなく、地元産業界等一般ユーザーに使ってもらうために課題の公募を行っている。その公募条件に、手厚い実験支援を行っていることから、スタッフ人件費や設備等の費用を研究支援業務経費として徴収している。このこと自体は、共用ビームラインで言うところの消耗品費実費負担制度等の受益者負担の部分と同じと言えるが、設置期間が 10 年と長いのでその間、設置者と施設者間双方で適宜、確認することが必要であるという意味で記載した。

まとめ：専用施設の契約満了に伴う利用状況等評価および次期計画の審査結果については、専用施設審査委員会の評価・審査結果どおり了解することとした。

4) 報告事項

(1) 成果の発表等状況について

野田常務理事から資料選 20-7 により説明があり直近の SPring-8/SACLA 成果審査委員会での議事報告と最新の成果発表状況、2011B 期で成果公開期限切れになった課題数等について報告があった。

坂田委員 (SPring-8/SACLA 成果審査委員会委員長) から以下の補足説明があった。2011B 期から制度を変更し、3 年以内に論文等の成果を公表することとなっている。今回その 3 年が経過したが、まだこの制度が充分認識されていないこともあり 34 件 (2/6 時点で 17 件) については、期限切れとなり新規申請が出来ない措置を取った。今後、それら対象者にも継続的にフォローし最終的には何らかの成果を公表いただくこととしたい。論文投稿までの期間は、自身でコントロール出来ても、それ以降については投稿先の審査状況により時間が読めない部分もある。これについては、サブミットさえしていれば、延期申請を承認することとしている。

意見：ユーザーとの接点はビームライン担当の方が多いので、事務方だけではなく、ビームライン担当からも折りをみて、周知していただくのが良いのではないか。

(2) 平成 27 年度パートナーユーザーの指定について

雨宮委員(パートナーユーザー審査委員会委員長)から資料選 20-8 により説明があり、27 年度新たに 3 名がパートナーユーザーに指定されたと報告があった。

(3) JASRI のビームタイム利用について

野田常務理事から資料選 20-9 により、2014A 期における JASRI のビームタイム利用の実績の説明があり、放射光共用施設の延べ利用時間の割合は上限 20% の内、13% であったと報告があった。

5) その他

最後に委員長および、土肥理事長から今回で任期が満了となることから、委員へ謝辞があった。

6) 閉会

以上